



TPPのメリット

◎ 1. 雇用を守り、増やす

～日本での事業活動が不利にならないために～

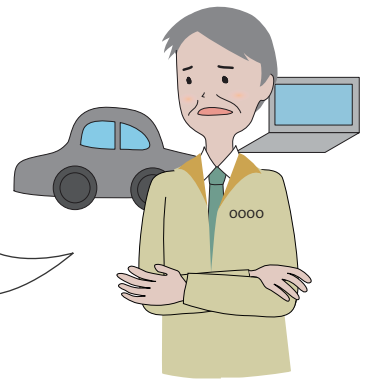
日本からの輸出品の値段を下げる

外国の関税を撤廃することで、日本の輸出品の価格が下がり、外国で売れるようにします。

関税のない韓国製にシェアを奪われています。

韓国は日本よりも先にいろいろな国と自由貿易協定 (FTA) を締結しているので、その国では韓国製には関税がかかりません。

関税のない分韓国製の方が安いので、関税込みで高い日本製は勝てません。ただでさえ円高で輸出品の値段が割高なのに……。このままでは海外に工場移転も考えなくてはなりません。



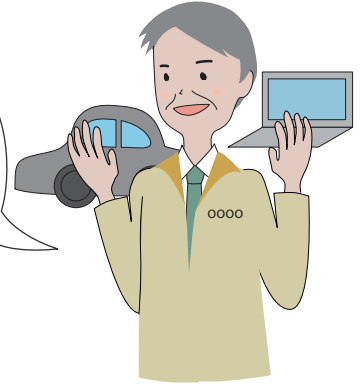
日本からの輸出には、実はまだ多くの関税がかかったままです。例えば米国向け輸出の6割は、関税によって、米国内での値段が高くなっています。自動車や家電など、日本企業と海外の市場で競合する韓国は、どんどん自由貿易協定 (FTA) を結んで、外国の関税を撤廃してきました。韓国は、日本より先に米国との FTA を締結したので、日本製は米国で関税がかかるのに、韓国製は関税がかからなくなっているのです。



TPPで関税を撤廃して、日本からの輸出品が外国で割高にならないようにします。

関税がなくなり、価格を安くできました。

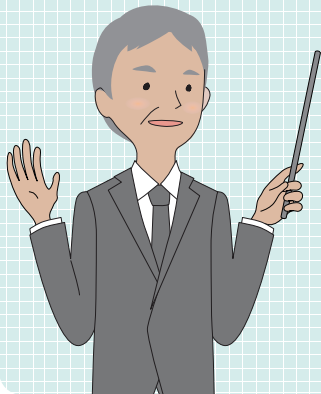
韓国製には、質の高さで勝負します！これで日本で工場が維持できます。



TPPで決めること

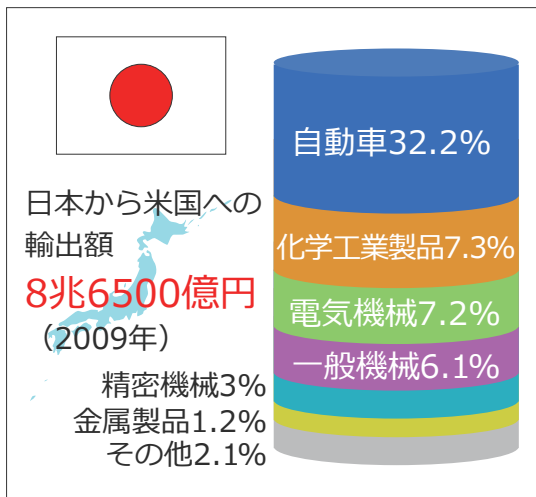
✓ 関税の撤廃

✓ ある商品の輸入が急増した場合に、自国の産業保護のために一時的に関税を上げられる「セーフガード」措置の発動条件



▶ 交渉分野：工業品、繊維、農産品

○ 日本からの輸出は依然、関税に直面



関税あり
対米輸出額の
約6割

関
税
障
壁

安い韓国製を
買うわ！



米韓FTAに
よって関税なし

自動車産業の場合：

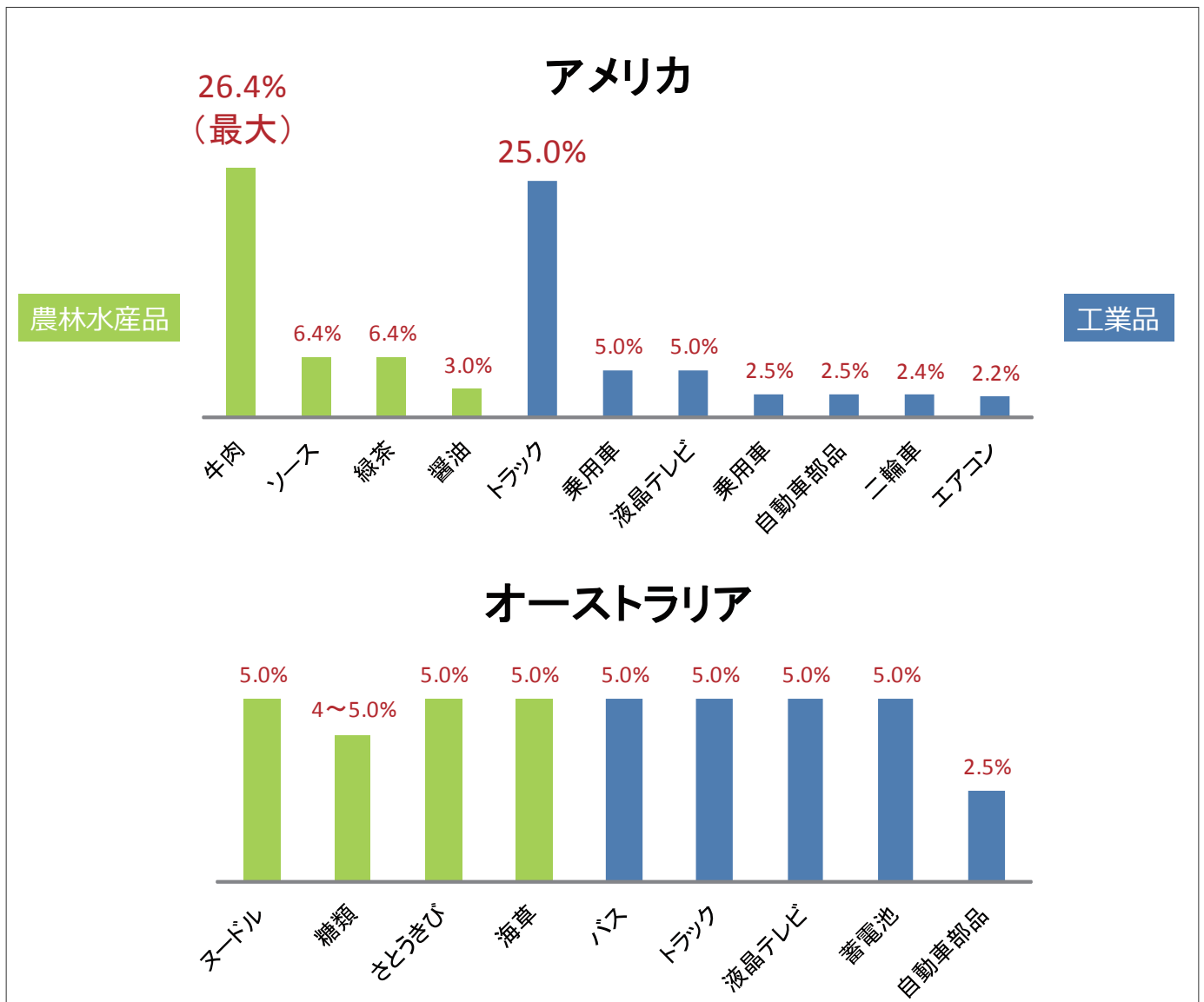
日本の自動車業界は、国内生産（793万台；2009年）の半分近くの約362万台（乗用車321万台、トラック・バス41万台）を輸出しています。

乗用車について見てみますと、日本がFTAを締結しておらず韓国が締結済みの国への輸出台数は、日本からの輸出台数全体の4割以上に達しており、これらはすでに関税分が韓国製より不利になっています。

韓国はさらに多くの国とFTA締結交渉を進めており、このままいくと、現在日本から輸出している乗用車の約8割が、海外の市場で韓国車よりも不利になってしまいます。これらの国々の市場規模の合計は、世界市場のおよそ半分、3000万台以上にのぼります。輸出ができず、生産拠点の閉鎖や海外移転となれば、わが国の自動車関連産業が支える約500万人の雇用はどうなるのでしょうか？

TPP 諸国の主な高関税（先進国）

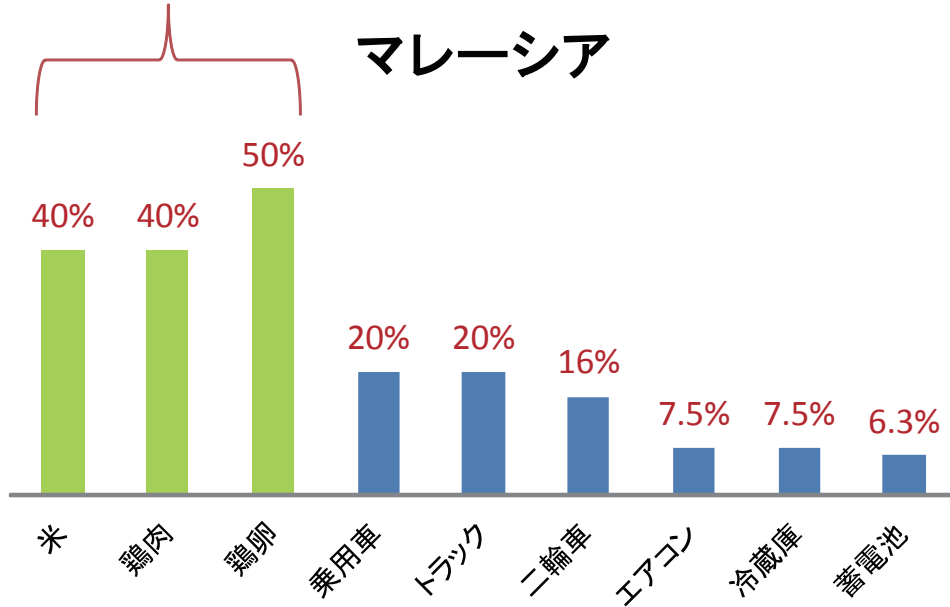
高いレベルの関税撤廃を目指す TPP 諸国にも、実は、まだまだ高関税が残っています。



TPP 諸国の主な高関税（日本の EPA 締結国、2011 年時点）

日本がこれまで EPA（経済連携協定）を締結した国との間でも、高関税が残っています。TPP は、日本との 2 国間 FTA では実現できなかった関税撤廃を実現するチャンスです。

日本との EPA では自由化対象から除外



日本との EPA では 15 年かけて撤廃

